

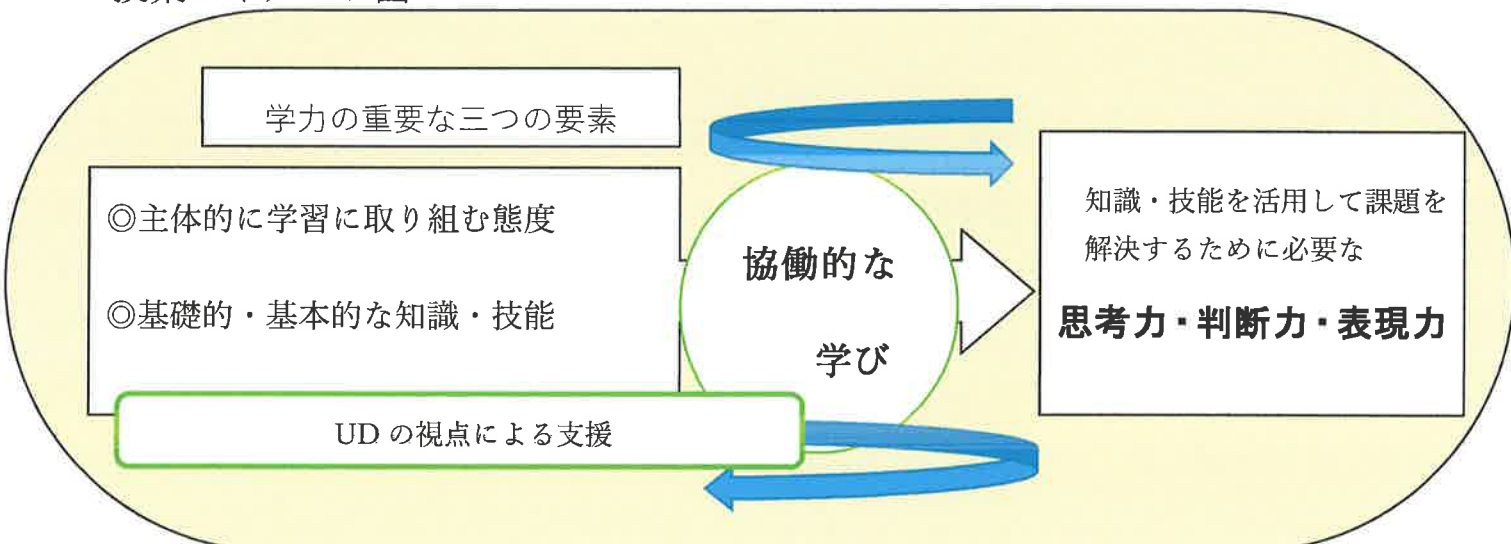
【研究主題】「わかる・できる」そして「学び」を使える生徒の育成
～主体的・協働的な活動を通して～

1 主題について

本校では、平成 24 年度から 26 年度までの 3 年間、言語活動に重点を置き、思考力・判断力・表現力を向上させる学習指導の在り方について研究を進めてきた。しかし、生徒の学習意欲の低下や基礎的な知識と技能の習得が不十分であるという課題が浮かび上がってきたため、平成 27 年度からは、ユニバーサルデザイン (UD) を核とした授業を展開し、基礎的な知識と技能の育成に焦点をしばり、生徒の学習の土台となる力を育てることで、思考力・判断力・表現力の育成につなげていくという研究テーマに方向転換を行った。その結果、すべての子どもの学びを保障する指導の在り方や授業の視覚化・焦点化をキーワードにした授業を進めたことで、生徒の意欲を持続するための有効な手立てや、基礎的な知識・技能の習得のための有効な手段が明らかにされ、徐々にではあるが基礎学力の向上もみられるようになった。そのような生徒の実態の変化から、平成 28 年度には、ユニバーサルデザインの視点を重視しながらも、さらに思考力の育成を目指すため、山形県第 6 次教育振興計画の中で推進している「探究型学習」を取り入れながら、「わかった・できた」という実感、学習意欲の向上や知識技能の習得を通して思考力を育む授業づくりについて研究を進めてきた。

昨年度の標準学力テストや全国学力学習状況調査及び探究型学習の推進「山形県学力調査」などの結果から、本校生徒の学力を客観的にとらえた時、基礎的な学力については徐々にについてはいるものの、思考力を問うような問題への正答率については、まだまだ課題が多いことも浮かび上がってきた。また、学力調査のアンケートからは、探究型の授業を仕組む教師側の意図が生徒にも理解されつつあることもわかってきた。今年度は、探究型学習のさまざまな手法を研究するとともに、生徒に力がつく授業を展開していく必要を感じている。そのような生徒の実態を考慮し、この 2 年間取り組んできたユニバーサルデザイン (UD) を重視した授業を核としながら、「探究型学習」を意識した授業を通して生徒に思考力をつけることができるようにテーマを設定した。また、方向性を明確にするため、思考力がついた生徒の姿を「学んだことを実際に使える生徒」ととらえ、「わかった・できた」という基礎的な技能の習得から「学んだことが実際に使えた」という実感がもてる生徒の育成を目指していきたい。さらに、日常の授業においては、ここ数年小国町学校教育研究所の研修会でご指導いただいている志水廣先生の指導法や菊池省三先生のご提言を取り入れた授業改善を行っていきたい。

<授業のイメージ図>



2 研究のねらい

(1) めざす生徒像

- I 基礎的な知識・技能を意欲的に習得する生徒
- II 習得した知識・技能を活用しようとする生徒
- III 習得・活用の場面で他と積極的に関わり合う生徒

I は、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学習指導を通して主体的に課題解決に取り組む姿を意識している。

II は、獲得した知識・技能をもとに学んだことを実際使える生徒の姿である。あえて、「活用できる」ではなく、活用しようとする生徒の姿を理想とした。

III は、協働的な活動や学びにおける生徒の姿である。

(2) 研究仮説

仮説 1

生徒自ら課題を発見できるような導入、発問、教材の工夫を行うことで、学習意欲が形成され、主体的に学習に取り組む生徒が育成されるのではないかと。(主体的な活動・学び)

仮説 1 の検証視点として、具体的に

- ① 単元での基礎・基本を明確化・重点化し、単元・本時のねらいと付けたい力を明示する。
 - ② 生徒の視点に立った、必要感や達成感のある単元を貫く課題を設定する。
 - ③ 生徒自ら課題を解決するための目標や手立てを考えられるようにする。
- の 3 点について、UD の視点に沿った手立てを行っていく。

仮説 2

他者と関わる必然性のある場を設定し、関わり合う手立てを工夫することで、よりよい知識・技能の使い方や使おうとする意欲の育成につながるのではないかと。(協働的な活動・学び)

仮説 2 の検証視点として

- ① 課題を解決するための学び方のモデルを具体的に示し、関わり合い活動に活かす。
- ② ねらいと視点を明確にした、必要感のある関わり合いを工夫する。
- ③ 生徒一人ひとりの実態を把握し、生徒の特性を意図的に生かす活動をする。

以上の 3 点について、UD の視点に沿った手立てを行っていく。

※ 特に UD の視点に沿った手立てとしては、以下の視点を重視していく。

- ① 授業の焦点化…ねらいや活動を絞り、何を学習するのかをはっきりさせる
- ② 授業の視覚化…言葉の指示だけでなく、効果的に視覚資料を活用する (ICT の活用)
- ③ 授業の共有化…学習形態や交流方法を工夫し、お互いの考えや思いを伝える
- ④ 小国町学校教育研究所での研修内容 (音声トレーニング、丸つけ法、復唱法、賞賛の拍手など)

3 研究計画・方法

(1) 研究の進め方

日常の授業でも「意欲的に習得する、他と積極的にかかわる」を意識して授業改善取り組む

- ・各教科で「意欲的に習得する、他と積極的にかかわる」を意識した授業や日常的な取り組みを設定し、一学期中に実践する。1人1実践としてレポートで提出する。
- ・道徳や学級活動、その他学校生活の様々な場面でも、考えを深めたり意見を交流させたりする活動や、生徒同士が互いに認め合える場面などを適宜取り入れる。

(2) 各指導部の重点活動を設定し、連携して進める

- ◇学習指導部
 - ・自主的な学習習慣の形成を図る（家庭学習の充実）
 - ・言語環境の整備（学年段階の言語活動のめあて、掲示の工夫）
 - 学習規律強調週間、家庭学習の指導、自学ノートの紹介など
- ◇生徒指導部
 - ・生徒指導の三機能を生かした集団づくりの具体化
 - ・自尊感情（自己肯定感、自己有用感）を高める指導の推進
 - HQUの結果を生かす取り組み、全校合唱、全校ボランティアでの取り組み
- ◇保体安全指導部・理想的な生活リズムの確立（朝食、睡眠）
 - 元気アップチャレンジカードの取り組み、Qトレでの具体的な活動など。

(3) 研究計画と基本的な進め方

- ① 目指す生徒像に迫るために、授業研究を核とした仮説の検証を、仮説の視点に沿った手立てを講じることで行う。
- ② 学校研究の仮説に沿った各教科の仮説・重点を設定し、生徒にも周知したうえで、生徒と共に、日常的に研究に取り組む。
- ③ 全体研究会と教科研究会について
 - ・全体研究会は、年間4回の提案授業と事後研究会をする。
 - 年間4回実施し、うち第4回目は学校研究発表会とする。
 - ・全体研究会で授業を行わない場合は、1ペーパー（本時案のみ）の教科研究会を行う。
 - ・すべての研究会を小国町内の小中高一貫教育の交流授業対象とし、参加者から広く意見や感想を求める形で、研究を深める手立ての1つとする。
- ④ 事前研について
 - ・全体研は、9教科を2グループに分けて実施する。
 - ・教科研究会は、それぞれの教科で実施する。
- ⑥ 事後研究会について
 - ・全体研は、研究会のグループに分かれ、ワークショップ型の事後研を実施し、その後全体での事後研究会を行う。
 - ・教科研は、教科を基本とした小グループで行う。
 - ・研究推進委員は、授業研究後に成果と課題を「学校研究だより」を発行する。
- ⑦ 全体研修会における職員の役割
 - ・司会、記録、写真撮影などを分科会ごとに割り振る。また、学校研究発表会に向け、授業者は授業研究後に授業の概要と成果と課題をまとめて提出する。写真記録は、動画での記録も行う。

(4) 授業力向上の取り組み

菊池省三先生や愛知教育大名譽教授の志水廣先生による「授業づくりについての研修」を生かした授業づくりを行う。

4 研究組織図及び年間計画

(1) 研究組織図



(2) 研究計画

月	期日	研究会・研修会名	内容	学習指導部	生徒指導部	保健安全指導部	教務・事務部
4月	12日（火）	職員会議 (校内研修)	29年度研究主題、内容、仮説視点、 年間計画の提案検討	教科経営案 学習規律 オリエンテーション (各教科)	生徒会総会 準備	教室・校内環境美化	講師日程調整 指導主事要請
		教科部会	各教科の29年度重点単元・目標の 確認と決定				
		研究推進委員会	年間の授業者決定				
5月	17日（月）	事前研1	指導案検討	全校テスト	あいさつ運動 HQテスト	セーブメディア 元気アップ週間	
	26日（金）	第1回授業研究会	授業者 山田（英語） 鈴木教（社会）				
6月	6月	事前研修会			全校 ボランティア		
	7日（水）						
7月	7月	第2回校内研究会	授業者 佐藤（技・家） 新野（道徳）				
	5日（水）						
7月	14日（金）	教科研究会（乙研）	授業者 伊藤（社会） 大場（国語）	学習アンケート		清掃強調週間	

8 月	17日（水）	校内研修 （職員会議）	1学期のまとめと 2学期の方向性		運動会	セーブメディア 元気アップ週間	
9 月	7日（水）	事前研修会		修学旅行・学年行事			
	13日（水）	第3回校内研究会	授業者 須田（国語） 樋口（保健体育）	学習規律 道徳推進月間			
10 月	11日（水）	学校研究発表会 事前研修会			合唱交流会 40-1テスト		
11 月	15日（水）	学校研究発表会 （志水先生来校）	授業者 鈴木（道徳） 齊藤（理科） 新沼（英語）		合唱交流会 40-1テスト		
12 月		研究推進委員会	今年度の成果と課題				
1 月		研究推進委員会	研究集録について	全校テスト	生徒会総会	セーブメディア元気 アップ週間	研究集録発行
2 月		校内研修 （職員会議）	来年度の学校研究について				